

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	藤本 侑花
<p>題 名 Neural responses to gaming content on social media in young adults</p> <p>(和 訳) 若年成人のソーシャルメディア上でのゲームコンテンツに対する神経反応</p> <p>オンラインゲームは絶大な人気を得ており、レクリエーションとして使用されたり、精神的、身体的なトレーニングや認知トレーニングとして使用されたりしている。一方で、過度なゲームプレイは、特に若い世代の間で、精神的健康および身体的健康の両方に悪影響を及ぼす可能性があり、広く社会的にも臨床的にも注目されている。人々は以前よりもソーシャル・メディアでゲーム関連のコンテンツに触れる機会が増えており、これらの暴露が人々の行動に大きな影響を与えている可能性がある。しかし、この影響の背後にある神経メカニズムはまだ解明されていない。本研究では、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) を用いて、オンラインゲームを日常的にプレイしている若年成人におけるソーシャルメディア上のゲーム関連コンテンツによって誘発される神経活動を調査することを目的とした。参加者は 19 歳から 25 歳のボランティア 25 名で、全員が男性であった。3 名は MRI 時の頭部の動きが大きく、除外された。参加者は fMRI の撮像中に、ソーシャルメディア上のゲーム関連の動画と、ゲームに関連しない動画を視聴した。ゲーム関連の視聴覚刺激は、ゲームに関連しない視聴覚刺激と比較して、内側前頭前野、後部帯状皮質、海馬、視床、上/中側頭回、楔前部、後頭部などのいくつかの脳領域を有意に活性化した。さらに、参加者のゲームに対する欲求のレベルは、左眼窩前頭皮質および右上側頭回でのゲーム関連視聴覚刺激による活性化と正の相関があった。これらの発見は、ゲーム関連視聴覚刺激に関するこれまでの研究を拡張し、若年成人におけるソーシャルメディア上のゲーム関連コンテンツの影響を解明するための有用な情報となり得る。実際のゲーム関連視聴覚刺激を使用した継続的な研究は、ゲーム嗜好の促進に対する理解を深めることに貢献する可能性がある。また、若者の間で問題となっているゲーム使用の人気の高まっていることに対処していくために今後も実際のゲーム関連動画を使った研究を続けていく必要がある。</p>	